

# RSウイルス感染症

## 1. RSウイルス感染症はどんな病気ですか？

秋から冬にかけて流行する乳幼児の代表的な呼吸器感染症です。  
生後1歳までには半数が、2歳までにはほぼ100%のこどもが感染するとされています。

## 2. どうやって感染しますか？

2種類の感染経路があります。  
①感染している人との直接の接触や、ウイルスがついている手やドアノブなどを介して感染する接触感染。  
②感染している人の咳やくしゃみで飛び出したウイルスを吸い込み感染する飛沫感染。  
主に接触感染によるとされています。

## 3. どのような症状がでますか？

潜伏期間は2～8日(主に4～6日)です。  
発熱、鼻水、咳などの症状が現れます。多くは軽症で済みます。  
重症になると、咳がひどくなる、呼吸のときゼーゼーいう、呼吸困難となるなど症状が悪化し、細気管支炎や肺炎へと進展します。

## 4. 特に感染しないように注意すべき人はどのような人ですか？

1歳ぐらまでの小さなこども、早く生まれた低出生体重児や心臓や肺に病気を持つこども、免疫不全のこどもは重症になりやすいといわれています。

## 5. どうやって診断するのですか？

最近鼻の奥を綿棒でこすってRSウイルスを検出する検査があります。インフルエンザの検査に似ていて10～15分程で結果がわかります。しかし、この検査はすべてのこどもに保険が認められていません。

## 6. 治療法はありますか？

RSウイルスに対する予防ワクチンはなく、特効薬もありません。  
水分補給、睡眠、栄養、保温など安静にして様子を見ます。

## 7. 感染しないためにはどんなことに注意すればよいですか？

RSウイルスは感染力が強く、保育園や幼稚園などで流行しやすいため予防が重要です。マスクの着用や、手洗い、うがい、こどもが日常的に触れるおもちゃやドアノブなどはこまめにアルコール等で消毒しましょう。  
特に感染しやすい0歳児や1歳児には注意が必要です。

## 8. いつから登校・登園できますか？

咳などの症状が安定したあとは登園・登校ができます。

## 9. 予防接種はありますか？

現在、予防接種はありません。  
早産児や心臓や肺に病気を抱えた乳幼児や、免疫不全や、免疫を抑える治療をしている乳幼児、一部のダウン症候群の乳幼児にはRSウイルス予防の抗体治療が認められています。  
RSウイルスの流行が始まる秋より流行が終わるまで、月1回注射をうちます。